

平成18年9月分 検査結果の概要

簡略な説明のため、若干正確性を欠く面もありますが、正確には従来どおり個表をご覧ください。

放流水等水質調査結果（（1）表）

最終排水口での測定結果。

代表項目	項目の説明	処理目標値	測定値	コメント
塩化物イオン (mg/l)	活着期 500～700 以上、分けつ期 700～1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。	500 (4～8月限定)	110～2600	利水時期も終わり、問題のない値でした。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	20	0.8～1.5	問題のない値でした。
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	20	5～9	問題のない値でした。
有害物質等 (mg/l)	有害金属のカドミウム、シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀について調査しました。	細目協定に掲げるそれぞれの値	定量下限値未満の値でした。	問題のない値でした。

地下水（シート下）と、2本の井戸水のモニタリング自動測定結果

代表項目	項目の説明	環境基準値	測定値	コメント
pH	7.0 が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性を示す。		6.3～7.6	従来と変わりなく、問題のない値でした
EC (mS/cm)	溶けているイオンの種類により差異はあるが、イオンの濃度がたかいほど数値が大きい。		0.3～1.1	従来と変わりなく、問題のない値でした

公共用水域水質調査結果（（２）表）

エコパークの下流、古志茂橋（中田川）採水したものです。また古志茂橋の上流に落ちている生活排水の影響を調べる為、その排水口とそのすぐ下流からも採水しました。

代表項目	項目の説明	環境基準値	測定値	コメント
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	50	21	問題のない値でした。
塩化物イオン (mg/l)	活着期 500～700 以上、分けつ期 700～1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。		2570～2660 生活排水 24	利水期間も終わり、問題のない値でした。また生活排水は 24 と低い値でした。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	5	1.9～2.0 生活排水 0.7	環境基準の範囲内で問題のない値でした。生活排水は 0.7 と問題のない値でした。
全窒素 (mg/l)	水中の有機物が分解される過程でいろいろな形態の窒素化合物が生成されるが、その窒素の総量。		4.1～4.2 生活排水 0.7	問題のない値でした。生活排水は 0.7 と問題のない値でした。環境基準はありません。なお同時に測定した硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素も環境基準の範囲内で問題のない値でした。

今回の測定では生活排水に汚れは見られませんでした。

粉じん（空气中浮遊アスベスト）調査結果（（３）表）

稲川集落内道路で空气中に浮遊しているアスベストを調査しました。

調査結果：

- ・ 空気 1 リットル中のアスベストは 0.3 本未満で問題のない値でした。

排ガス調査結果（（４）表）

廃棄物を焼却することで発生する排ガス中の物質を測定しました。」

項目	項目の説明	処理目標値	測定値	コメント
ばいじん (g/m3N)	排ガスに含まれる固体の粒子状物質	0.05	0.03 未満	問題ない値でした。
硫黄酸化物 (k 値)	排ガスに含まれる硫黄の酸化物の総称で、通称 SO _x (ソックス)。	17.5	0.01 未満	問題ない値でした。
塩化水素 (mg/m3N)	塩化物や塩素を含む物質の燃焼により発生する酸性のガス。	200	190 未満 21	硝酸銀滴定法とチオシアン酸水銀() 吸光光度法とで並行測定し、問題のない値でした。
窒素酸化物 (ppm)	排ガスに含まれる窒素の酸化物の総称で、通称 NO _x (ノックス)。	200	11	問題ない値でした。

土壌（周辺環境含）測定結果（（５）表）

エコパーク内及び周辺の土壌を４地点で採取し、有害金属等７項目の測定を行いました。

- ・ ４地点とも昨年とほとんど差異がなく、全て環境基準内もしくは定量下限値未満の問題のない数値でした。

周辺環境地下水水質測定結果（（６）表）

エコパーク周辺５ヶ所の地下水の水質３４項目を測定し、変動の有無を調査しました。

- ・ ST-1-1の地点で今回砒素の値が環境基準（0.01mg/l）を超え、0.020mg/lでした。自然由来のものと考えられますが、この地点ではH13年0.004mg/l、H14年0.035mg/l、H15年0.006mg/l、H16年0.028mg/l、H17年0.031mg/lと測定値が上下しており、今回も水脈の水量等自然変動が影響しているものと思われます。他の項目は問題のない数値でした。
- ・ 上記以外の地点は、環境基準内もしくは定量下限値未満の問題のない数値でした。

埋立量年次推移（平成11年度から平成17年度までは測量実績値）

	単年度(m3)	累計(m3)	残容量(m3)
平成11年度	76,464	76,464	1,407,536
平成12年度	117,876	194,340	1,289,660
平成13年度	154,102	348,442	1,135,558
平成14年度	84,916	433,358	1,050,642
平成15年度	106,886	540,244	943,756
平成16年度	97,026	637,270	846,730
平成17年度	92,195	729,465	754,535
平成18年度（4～9月）	53,627	783,092	700,908